

2014/5/25「村民との対話」A班のまとめ 報告者 佐藤健太さん (文責 宇野義雄)

参加者は約10名で、男性がほとんどでした。佐藤健太さんが飯舘村の商工会議所青年部長であることから、“商工業の再生を考える”ことが話題の中心になりました／しました。

1. 佐藤健太さんの報告

父親が村内で会社(工場=護岸用テトラポッドの型枠の製作とメンテ)の操業を続けており、自分は村外に住んでその営業部門を担当し、全国規模の活動をして生業としている。青年部長として若い世代の仲間と何とか連絡を取り合い全体の方向性を見出したいと思うが、住所と活動がバラバラで連絡を取ることさえ簡単ではない。自分自身は恵まれた状況にあるが、他の部員みんなが先ずそれぞれの生業を成り立たせた上でないと、纏めるべき意見を出し合えないと思っている。

2. 工業について

(1) 横田監事からの提言：『飯舘村商工会議所の活動を盛んにするために、全国商工会議所連合会に依頼して特別相談指導員を派遣してもらおう等をしたらどうか。派遣者が来ればいろいろな知恵も出してくれるだろう。自分は連合会へ働きかけるルートを持っている。』

(2) 様々な意見：

- ・メガソーラー計画はどうなっているか？ ⇒村と東芝の建設計画が進んでいる。稼働すること自体は良いことだが、特に雇用を生むわけではない。
- ・村内での工場稼働には、やはり除染が前提として必要なことだ。
- ・従業員が離散状態なのがとにかく痛い。 ・商工会の各種イベントも無くなってしまった。 ・補助金の種類と申請の詳細を調べた方が良い。何か活用できるものがあるかもしれない。 ・出荷制限されている石材業を復活させる道はないか。 ・青年部に女性の参加を期待する。 ・帰村の成功例を逐一洗って、成功前例に学ぼう！ ・

3. 商業について

商業／商売についての話では、『人が居なければ商店は開けない、商売は成り立たない』という一言で全員が何故か納得？してしまって、大勢が帰村した先にやっと商業の再生が緒に就くという遠い話なので話題が続き難かった。

様々な話し合いの中で感じたことは、困難さを共感することはできるが、その具体的な解決策を打ち出す／共に行動するにはとても距離があるということでした。それでも1歩1歩進めるしかない、ということでしょう。健太さんが別に活動している『新しい文化を創造する会』(演劇活動ほか)については敢えてグループの話題にしませんでしたが、若者の／村民全部の活力を増進する動きとして宇野は注目し応援もしたいと思います。(以上)